

## 論文審査の要旨

報告番号	甲・㉔ 第 2969 号	氏名	榎戸 克年
論文審査担当者	主査 臨床病理診断学	瀧本 雅文	教授
	副査 放射線医学	加賀美 芳和	教授
	副査 皮膚科学	末木 博彦	教授
(論文審査の要旨)			
<p>腋窩リンパ節転移陰性乳癌に対してはセンチネルリンパ節生検 (SNB) が標準治療である。一方で、診断時に腋窩リンパ節転移陽性乳癌に対しては、術前化学療法 (NAC) が著効した場合であっても腋窩リンパ節郭清が行われている。</p> <p>本研究では、腋窩リンパ節転移陽性乳癌に対して、NAC 後に SNB を行う多施設共同前向き臨床試験を立案し、偽陰性率 (センチネルリンパ節転移陰性かつ非センチネルリンパ節に転移を認めた症例の割合) およびセンチネルリンパ節の同定率を検証した。</p> <p>バイオマーカーをもとにした臨床的サブタイプ別で同定率に差はないものの、エストロゲンレセプター (ER) 陽性/HER2 陰性 (Luminal type) では優位に偽陰性率が高く、非 Luminal type 乳癌では偽陰性率が低かった。</p> <p>NAC が著効した非 Luminal type 乳癌における SNB の可能性を示唆した点において、本論文が新しい知見を得ており、学術上価値のあるものと考えられる。</p>			
論文題名 : Sentinel Lymph Node Biopsy After Neoadjuvant Chemotherapy in Patients With an Initial Diagnosis of Cytology-Proven Lymph Node-Positive Breast Cancer.			
掲載雑誌名 : Clinical Breast Cancer. Volume 16, Issue 4 299-304 頁 2016 年 8 月			

(主査が記載、500 字以内)